



からしだね

2014年
1月号 (490号)

キリストの受難
カトリック池田教会

共同宣教司牧: 畠 基幸神父・染野 治雄神父
協力司祭: デニス・マックゴワン神父
住所: 〒563-0041 池田市満寿美町9-26
TEL :072-751-2400 FAX :072-753-4624
URL(ホームページ):
http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/



巻頭言	2	典礼委員会から	2
中高生お泊まり会宿泊者募集	3	待降節小教区黙想会	4
松浦司教様訪問	4	チャリティコンサート	5
神の国を待ち望む	5	信仰年のめぐみ(ME)	6
ガラスケースの言葉	6	宝塚黙想の家から	7
財務委員会から	7	からしだね俳壇	8
からしだね写真館	9	表紙写真説明	9

表紙写真: サンフランシスコ セント・ピーター&ポール教会 撮影: 藤阪 真衛

巻頭言

心に納め、思い巡らす

染野 治雄神父

新年あけましておめでとうございます。

私たちの祖先たちは季節を繰り返すなかで時の流れに区切りを見つけ、一年間の体験を過去のものとし、それを新しい年への希望と力に変えて、次の一步を踏み出してゆきました。

よく、過去のことは過去のことにして新しい気持ちで前に進もう、よくないことは水に流そう、などと言われます。もちろん、これは悪いことではありません。気持ちに整理をつけることは心の安定のために必要です。しかし単に過去を忘れてしまえばよいということではありません。大切なのは、過去の体験や出来事に意味を見出そうと「心に納め、思い巡らす」(ルカ2.19参照)ことです。

聖書の言葉を語り継いできた民は、歴史のなかで体験してきた民族の記憶、特によくない記憶、都合の悪い記憶を心に納め、思いめぐらし、意味を見出そうと努力してきました。そして、そこに生ける神が確かに働いておられる、神が共にいてくださることを見出し、確信し、進むべき道の道しるべとしてきたのです(もともと、すべてがそのようにできたわけではないのですが)。

その神と民との出会いの記録が聖書の言葉です。そこには一つの民族を超えた、人類すべての普遍的な救いの真理が隠されています。聖書の言葉は汲めども尽きない人類永遠の宝庫です。

新しい年の始まりに、一年の希望を語ることはよいことです。しかし同時に、過去の出来事を心に納め思いめぐらすことも大切になります。聖書の言葉は私たち一人ひとりの体験を照らし、そこに意味を見出すための光です。出来事に意味を見出すことは決して簡単な作業ではありません。よくない出来事はとくにそうです。けれど、それを心に納めて思いめぐらすとき、み言葉は確かにわたしたちを照らし、行くべき道の光になるのです。

新年最初の日、私たちは神の母聖マリアを祝います。天使からお告げを受けたとき、マリアさまはどのような気持ちだったのか。想像してみましょう。神の子を宿すとはどういうことなのか。神の母になるとは、いったいどういうことなのか。マリアさまの生涯は、その時々イエスの出来事に思いを巡らし、神の母としてなすべきことを探し続ける旅でした。

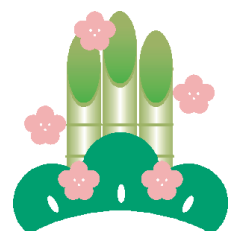
この世の荒れ野を旅する私たちもまた、一人ひとりが神の子として、神さまは何を望んでおられるのか。神の子として生きるとはどのようなことなのか。母であるマリアさまに倣い、日々の出来事を心に納め、思いを巡らし、自分の向かうべき道を探し続けます。

「これが〔あなたの〕行くべき道だ、ここを歩け／右に行け、左に行け」(イザヤ30.21)と、神の声を聞きます。このようにして、私たちはどんなときでも、良いときも、良くないときも神と共にいることを知り、共に助け合い支え合って神の国への旅を続けることができるのです。

この一年、神さまは私たちにどのような出会いを用意してくださるのでしょうか。今年も神さまの豊かなお恵みがありますように。

典礼委員会から

- ・ 12月29日(日)は、聖家族の祝日です。家族の祝福があります。
- ・ 新年(1月1日～3日)のミサは、11:00からです。
- ・ 1月12日(日)に、馬小屋の片づけを予定しています。



中高生のお泊まり会の宿泊者募集！！

中高生の保護者又は女性の方で、毎月第2土曜日に泊まって下さる方を募集しています。聖堂玄関に貼り出しています表に書き入れてください。 (研修委員会)

待降節 小教区黙想会 (12月1日)

待降節の小教区黙想会の指導は、染野神父様でした。幾つかの聖書の箇所や、長崎 外海地方の伝道師 バスチャン様の預言を例に挙げて、信仰を持って待つということは、神に向かう積極的な生き方だと、話をされました。



松浦司教様 訪問 (12月8日)

松浦悟郎司教様が池田教会を訪問されました。

ミサでは、旧約の頃の「待つ」と今の「待つ」は少し違って、今は、必ず来るとわかっているものを信じて待ってる状態なのだとのお説教でした。

ミサ後には、信徒からの質問に答えられました。司教様が司祭になろうと思ったのは、小学6年生の頃だそうです。ミサの準備の手伝いをするのが楽しく、毎日が日曜日であればと考え、その思いが神父になる理由の一つとなったとのこと。



← 大勢の侍者と共に
「この教会は、侍者が多くて
良いですね」というのが、
お説教の第一声でした。



クリスマスチャリティーコンサート (12月8日)

今年で38回目のチャリティーコンサートは、天候にも恵まれ、たくさんの方が来場下さいました。歳末たすけあい募金の折に配ったチラシを見て、10名の方が来て下さったことは、大きな喜びでした。

ヴァイオリン演奏は鷺山かおりさん、ピアノは増本あつ子さんでしたが、バッハやモーツァルトの音楽を子どもたちが聞き入っている姿に感動しました。

素晴らしい演奏を聞かせて下さったお二人に感謝いたします。



神の国を待ち望む

直

「なんびとにも悪意をいだかず慈愛の心で接し、神が示される正義をかたく信じ、わたしたちが取りかかった仕事——国民の傷を癒やし、戦いに倒れた人、彼の未亡人と孤児を慈しみ、われわれ互いのなかにも、またわれわれと諸国民とのあいだにも公正にして永続的な平和を創り、育むために全力を尽くそうではありませんか。」

1865年3月、リンカーンは第二期就任演説を上のような言葉で結んだ。62万人の命を奪った南北戦争の責任を負わざるを得なかった最高指揮官たる彼の言葉は、いまでも重い。この時期にリンカーンが取り組んだ課題と苦悩を、スティーブン・スピルバーグ監督が描いた映画が今年公開されたので見た。派手なアクションやロマンスが見られるわけもないので人気は出ないだろうが、一見の価値はある。奴隷制という「神の正義」を踏みにじる制度に終止符をうつことの難しさや、癒やしと慈しみに支えられた社会を創造することの素晴らしさが伝わってくるから。

争いがなく命が尊ばれる平和な世界、つまり「神の国」を創ろうと語った大統領だったが、演説後一月も経たないうちに命を奪われる。狂信的南部支持者のテロだった。上の言葉はだから「遺言」であり、その実現は後世に委ねられている。リンカーンの遺言実現に努める仕事を担うべき後見人は、アメリカ人だけではあるまい。諸国民とアメリカとの「永続的平和」をこそ、彼は望んだのだから。彼の言葉を夢物語に終わらせないためには、世界の人びとが協力しあわねばならない。

リンカーンの死後すでに一世紀半がすぎ、われわれは21世紀に生きている。だが、彼が夢見た「永続的平和」をアメリカは未だにうちたてることができない。リンカーンの死後、どれだけ世界は戦争を繰り返しただろう。二度の世界大戦、朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争・・・「神の国」から、わたしたちは遙かに隔たった現実のなかに暮らしている。しかしだからこそクリスマスをまえに、平和の子イエスを待ち望むや切である。

信仰年のめぐみ

－ 宝塚黙想の家でのM・E ウィークエンドともみじまつり2013 －

カトリック伊丹教会 M/E チーム

私たちは「宝塚黙想の家」で行われた「マリッジ・エンカウンター(M・E) ウィークエンド」と「もみじまつり2013」に関わり、そこで出会った人たちとお話を通じて与えられためぐみがありました。伊丹教会の夫婦ですが、そのことを皆様と分かち合いたいと思いついて投稿させていただきました。

どちらの行事も、売布にある御受難修道会「宝塚黙想の家」、男子修道院と女子修道院全体を会場にして行われ、「マリッジ・エンカウンター(M・E) ウィークエンド」は11月15日～16日、「もみじ祭り2013」は11月23日に、開催されました。

M・E ウィークエンドには、6組の夫婦が参加されました。最終日、お迎えのパーティーを準備していた時の事でした。ご本人も度重なる手術を受けられて、去年はがんでご主人を亡くされた先輩のご婦人が、来てくださいました。黙想の家まで来られること自体、ずいぶん大変だったろうと思いついてお話をしていると、その方がしみじみと言われました。「ここはね、私の第2の心のふるさとなの。何回もM・Eのチームとして主人と参加して、その時参加してくださっているご夫婦の目が、1日、2日と経つうちに輝いてきてね、それを見ているとね、うれしくて、主人と二人、素晴らしい体験だったわ。」その言葉には、力があり、ご婦人が今もご主人と歩んでおられることをうかがい知ることができました。そして、ウィークエンドを終えて出てこられたご夫婦たちの顔は、本当に、笑顔で輝いていました。3日間をサポートした私たち夫婦も、二人で過ごした時間を分かち合い、素晴らしい時間を持つことができました。参加された方々にとっては、意識されたか否かに関わらず、信仰年を締めくくるのにふさわしい3日間だったと思います。

この7日後、黙想の家のもみじは完全に色づき、黙想の家の入口では、その真っ赤なもみじの下で両手を広げたイエス様が、「我に来たれ」ともみじまつりに来た人々を迎えてくださっていました。

食と健康の話や、恒例になっている典礼聖歌コンサート、御受難会修道士によるあの丘一帯をめぐる十字架の道行きなどが催されていました。紅葉を見ながらの野点は、都会の喧騒を忘れさせてくれるだけでなく、ウォード神父様や池田教会、北摂地区の教会の知り合いの方々との再会を語り合い、親交を深める場でした。

それだけではなく、私たち夫婦は親しかった友人と、黙想の家に吹き渡る聖霊に導かれたかのように、痛みを分かち合い、語り合い、イエス様を伝えるという体験もしました。祈りの場としての黙想の家にしたからこそその機会を与えられたのだと思います。最後にもみじの下で行われた閉会の野外ミサも、祈りの場として落ち着いた雰囲気の中でのミサでした。医療班をしてくださいと実行委員会から呼ばれて行ったのですが、イエス様のために働くよう神様が様々な出合いを用意してくださっていたのもみじまつりでした。

ちょうど信仰年の閉幕に当たり、この1年間を振り返ると、いくつものカトリック行事に夫婦で参加してきました。自分の信仰を振り返り、見直そうという信仰年でしたが、旅の先々、参加した講演会、洗礼式、ミサ、黙想会、セミナーなど、思いもよらぬところで、たくさんのめぐみを神様は与えてくださったのだと思いました。

1月のガラスケースの言葉

神がキリストによって
あなたがたを赦してくださったように
赦し合いなさい。
(エフェソ 4・32)



宝塚黙想の家から 黙想会のお知らせ

私たち、キリスト者に与えられている宝は、神のみことばである聖書です。
 黙想の家では、毎月みことばを深く味わう集いを行っています。
 宝は大事にしたいですね。

■ 日帰り黙想会

1月16日(木) 10:00~15:30 指導: 山内十束神父 費用: 3,300円
 1月17日(金) 10:00~15:30 指導: 山内十束神父 費用: 3,300円

■ 1泊黙想会

1月18日(土) 17:00~19日(日) 15:30 指導: 山内十束神父 費用: 8,800円

※ 申し込みは、黙想の家まで TEL. 0797-84-3111

財務委員会より

★10月度・11月度の光熱費

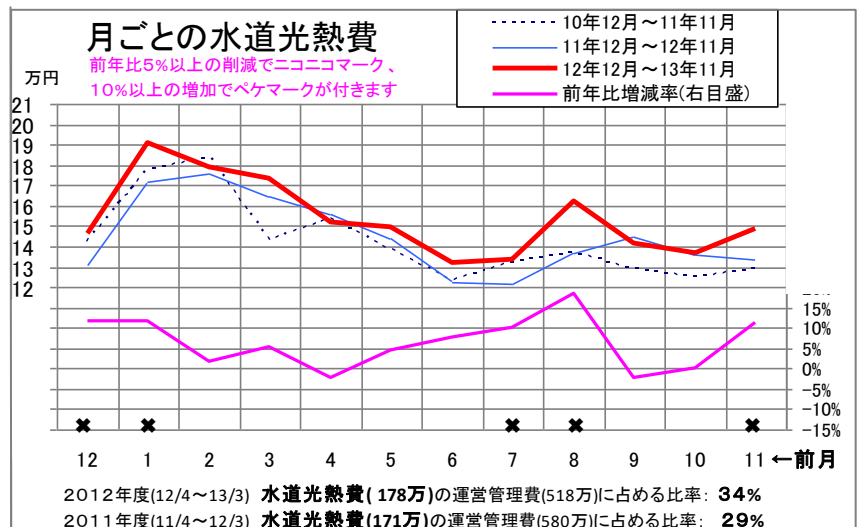
10月 電気代 117,321円 ガス代 6,125円(9月分) 水道代 26,124円(8-9月分)
 11月 電気代 118,603円 ガス代 11,066円(10月分)

《直近1年間の光熱費の推移》

10月度は全体が前年比プラスマイナス0になっていますが、前年度は水道代がかなり高額になっていたので、電気代ガス代のみで考えると若干の増加になっています。しかし、電気代の値上がり分を考えると、節約できたのではないかと思います。

しかし、11月は前年比かなりの増額になりました。水道代が前年より少なかったことを考えると(このグラフでは10月と11月で水道代を按分しています)、かなりの増額になっているといえます。ガス代が少し多いのは毎年のことで、10月にはバザーがあり通常の月よりも台所のガスの使用量が多いためと考えられます。

これからも、皆様のご協力をよろしく願っています！



編集後記

カトリック教会の「カトリック」が普遍的であることを強調されているのを感じる時は嬉しい。民族や国家、文化を越えてカトリック教会が広がったのは、民族や国家、文化の特異性によって純化されて出現したと思われる奥深い神論やある時代とある地域にのみ出現しえた人間観や自然観を受容して、それらをカトリック教会が包摂して来たからではないかと思われる。カトリック池田教会において、「からしだね」がその一端を担うのが夢。

普遍的な教会であるからこそ、旧約の預言者や新約のキリストの言葉(啓示)の深遠な意味が曖昧になるのかもしれない。今、わたしを虜にしているのはパウロのローマの信徒への手紙8章23-27「—————。同様に(私たちの内に宿っている)“霊”も弱いわたしたちを助けて下さいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“霊”自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成して下さるからです。人の心を見抜く方は“霊”の思いが何であるかを知っておられます。—————」 (インマヌエル)



12月1日
待降節小教区黙想会
(黙想指導 染野治雄神父)

からしだね 写真館



12月8日
松浦悟郎司教
池田教会
訪問



12月8日
クリスマスチャリ
ティコンサート

【表紙写真説明】 サンフランシスコ セント・ピーター&ポール教会

10月に妻と2人で、サンフランシスコに行ってきました。セント・ピーター&ポール教会は非常に美しい教会で、からしだねの表紙写真を…と乞われた時、迷わずこの教会の写真を選びました。ちなみに、カテドラルは、この教会とは別になりますが、とてもモダンな建物でした。
(藤阪)

